

14. キャンプファイアー・キャンドルファイアー

1. ね ら い

闇夜の中で、燃えさかる神聖な火の下につどい、自他ともに見つめ合い語り合うことを通じて、友情と協同の精神を養い親睦を図ることをめざします。

2. 時期・時間

- ・キャンプファイアーは、5月から10月頃が適切です。
(それ以外の時期は気温が低く風も強いいため不向きです。)
- ・キャンドルファイアーは、室内で行いますので年間を通じて活動できます。
- ・1時間30分～2時間

3. 準 備

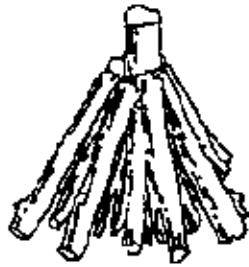
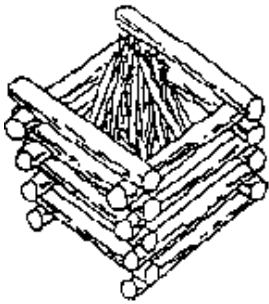
	自然の家で貸し出しできる物とその保管場所	利用者で準備する物	事前準備 (例)
キャンプファイアー	<p><事務室> アンプ・ワイヤレスマイク CD・MDラジカセ 延長コード アコーディオン タンバリン ギター (チューニングは団体でお願いします)</p> <p><利用者玄関横用具入れ> 火ばさみ 消火用バケツ スコップ 一輪車 その他掃除用具</p>	新聞紙 トーチ棒 (売店でも購入できます) まき、灯油 (売店でも購入できます) 軍手 マッチ、ライター等	
キャンドルファイアー	<p><事務室> アンプ・ワイヤレスマイク CD・MDラジカセ 延長コード アコーディオン タンバリン ギター (チューニングは団体でお願いします)</p> <p>キャンドル台 <クラフトホール・プレイホール・なかよしホールの倉庫内、研修棟1F ロビーにあります。></p>	ローソク (売店でも購入できます。 キャンドル台には、約15本 ローソク(大)を立てられます。 ローソク(小)については、 団体に相談の上、必要分ご準備 ください。 小ローソクはアルミホイル付。 なお、 <u>エコロジーホールでは ローソクは使用できません。</u>) マッチ、ライター等	①役割分担の確認 ②ローソクの設置・配布 大：1<女神用> 約20本<キャンドル台用> 小：必要な数 ③キャンドル台 ④座席の確認 ⑤女神等の衣装 (必要な場合)

4. 活動内容

(役割分担)

営火長、 火の神 (女神)、 エールマスター (進行)、 ファイアーキーパー (営火)、 分火係、 準備係、 後始末係等

(まきの組み方の例)



イン
ディ
アン
型

(キャンドル台)



井桁の中にインディアン

(展 開 例)

	キャンプファイアー	キャンドルファイアー
部 10 ~	集 合	集 合
	入 場	入 場
	タベの歌	タベの歌
	聖火入場	聖火入場
	女神の言葉	女神の言葉
	分 火	分 火

・ファイアー場から少し離れたところ。
(利用者玄関前等)

・静かにファイアー場を1周まわり席に着きます。

・「遠き山に日は落ちて」歌及びハミング
〈途中聖火入場〉

・ファイアー場を1周し、定位置につきます。

・(資料参照)

・分火係は、営火長のところに集まります。
〈女神⇒営火長⇒分火係〉

・ファイアー場から少し離れたところ。
(2フロビー等)

・静かにキャンドル台を1周まわり席に着きます。

・「遠き山に日は落ちて」歌及びハミング
〈途中聖火入場〉

・キャンドル台を1周し、定位置につきます。

・(資料参照)

・分火係は、営火長のところに集まります。
〈女神⇒営火長⇒分火係〉

15分	<div data-bbox="336 73 483 147">献詞</div> <ul style="list-style-type: none"> ・（資料参照） <div data-bbox="336 219 483 293">点火</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営火長・分火係が一斉に点火 <div data-bbox="336 327 483 400">歌</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「もえろよもえろ」〈校歌、団体歌、楽しい歌など〉 	<div data-bbox="879 73 1026 147">点火</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分火係は、自分の席にも <div data-bbox="879 219 1026 293">献詞</div> <ul style="list-style-type: none"> ・（資料参照） <div data-bbox="879 327 1026 400">集火</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 燭台へ班ごとに集火 <div data-bbox="879 472 1026 546">歌</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「もえろよもえろ」〈校歌、団体歌、楽しい歌〉
二部 60分～ 90分	<div data-bbox="336 645 483 719">活動</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム、スタンツやフォークダンス等 〈全員が声を出し身体を動かして楽しめるもの〉 <div data-bbox="336 857 483 931">歌</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 静かな歌 〈赤とんぼ、四季の歌、ともしび、母さんの歌等〉 	<div data-bbox="879 645 1026 719">活動</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム、スタンツやフォークダンス等 〈全員が声を出し身体を動かして楽しめるもの〉 <div data-bbox="879 857 1026 931">歌</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 静かな歌 〈赤とんぼ、四季の歌、ともしび、母さんの歌等〉
三部 10分～ 15分	<div data-bbox="336 1070 539 1144">営火長の言葉</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 印象に残るもの ・（資料参照） <div data-bbox="336 1216 568 1290">トーチサービス</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営火長がファイヤーからトーチ棒に点火し、代表に点火 〈営火長・班長・班員に点火〉 <div data-bbox="336 1496 512 1570">終わりの歌</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終わりの歌 〈1日の終わり、今日の日はさようなら、別れの歌等〉 <div data-bbox="336 1675 483 1749">退場</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「蛍の光」等の歌を歌い女神、営火長、各班と退場 	<div data-bbox="879 1070 1082 1144">営火長の言葉</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 印象に残るもの ・（資料参照） 〈この時、女神のローソクの火だけ残し、営火係は他の火を全部消す〉 <div data-bbox="879 1283 1066 1357">終わりの歌</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終わりの歌 〈1日の終わり、今日の日はさようなら、別れの歌等〉 <div data-bbox="879 1496 1038 1570">退場</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「蛍の光」等の歌を歌い女神、営火長、各班と退場
後始	<div data-bbox="331 1861 528 1895">【当日の後始末】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファイヤーの燃え残りのまきはすべて燃やしきり、自然消火します。 ※水をかけて消火しないでください。 <div data-bbox="331 2033 528 2067">【翌日の後始末】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 翌日の朝、ファイヤー場の清掃、整理をします。 <div data-bbox="887 1861 1062 1895">【活動終了後】</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ローソクが全部消えているのを確認し、キャンドル台の整理及び元の位置に戻してください。 また、使用した場所の清掃をしてください。 	

末	<ul style="list-style-type: none">・残炭は、所定の残炭入れに入れます。・まきを束ねてある針金は所定の位置にお願いします。 <p>※清掃用具は、利用者玄関横の掃除用具庫内の用具を使ってください。</p>	
---	--	--

(資 料)

【女神の言葉】

私は、曾爾の神の使いとして、〇〇学校のみなさんに神の聖なる火をつかわすために来た女神です。
赤々と燃えるこの火には、平和と友情と親睦の願いがこめられています。みなさん、曾爾青少年自然の家で友だちと一緒にがんばったこと、苦しかったこと、楽しかったことをいつまでも忘れずに、一層友情の輪を広げていきましょう。

【営火長の言葉】

私たちは、全員協力して曾爾青少年自然の家で実りある生活ができたことに感謝します。私たちは、ススキの海原と高い山々に囲まれた曾爾の大自然のもとで、〇泊〇日の生活を全員協力しながら行い、ひとつの喜びと新しい友を得たことを感謝します。赤々と燃える聖なる火は、未永く私たちの胸の中に残ることを信じてこの集いを閉じたいと思います。

【献詞】（一人のとき）

家庭や学校からはなれ、大自然にどっぷりひたったとき、自然の雄大さをしみじみ感じます。友だちと一緒に汗を流しながらの活動、風呂場での背中での流しあい、食事やベッドの中でのおしゃべりなど、はじめての経験から「友だちっていいな。」と感じました。
今日のこの感激を忘れることなく、この燃える炎のごとく、友情の火をいつまでも燃やし続けていきたいと思います。

平成 年 月 日

代 表 〇 〇 〇 〇

【献詞】（グループのとき）

第1グループ	友情の火	私たちは、友情を大切にすることを誓います。
第2グループ	社会につくす火	私たちは、社会につくすことを誓います。
第3グループ	自然を大切にす火	私たちは、自然を大切にすることを誓います。
第4グループ	誠実の火	私たちは、誠実な人間になることを誓います。

5. 留 意 点

- 火災ややけど防止のため、火の取り扱いには十分気をつけましょう。
- トーチの消化及び緊急時の安全のため、消火用のバケツを必ず準備してください。
- 強風の時はキャンプファイアーの実施は見送り、キャンドルファイアーに切り替えましょう。